令和８年７月１４日

松本市議会
　議長　阿部　功祐　様

議会運営委員長　太田　更三

議会運営委員会行政視察報告書

　議会運営委員会において行政視察を実施しましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

１　期日
　令和８年７月９日（木）・１０日（金）

２　参加者
　議会運営委員１０人、正副議長、事務局随行３人　　合計１５人

３　視察先及び調査項目
⑴　東京都府中市議会　議会施設について
⑵　埼玉県越谷市議会　議会施設について

４　概要
⑴　東京都府中市議会
　ア　日時　　令和８年７月９日（木）午後１時３０分～午後３時３０分
　イ　場所　　府中市役所
　ウ　対応者　府中市議会事務局庶務課　課長　清水　貴之　氏
　　府中市議会事務局議事課　課長　篠塚　誠二　氏
　　府中市議会事務局庶務課　調査係長　立仙　純　氏
　　ほか　府中市議会事務局職員　２名
　エ　内容
　　府中市役所は、行政機能を集約した「おもや」と、市民活動・交流の場となる図書館やカフェ、市民協働活動スペースがある「はなれ」の２つの棟からなっている。「おもや」は令和５年８月に供用開始、現在は「はなれ」を建設中。議会施設は「おもや」の最上階である５階フロアに集約されている。
　　(ｱ)　議場（議会施設）の多目的利用
　　議場の多目的利用は建設時に検討はされたが、議会機能を優先するため多目的

利用はしていない。委員会室は、現在庁内に限り貸し出しているが、「はなれ」竣工後は会議室は充足する見込み。議場ロビーは自由に出入りできるため、視察時も市民の方がいらしていた。

(ｲ) 議場の傍聴環境

・ 障がいのある方への配慮（バリアフリー化）

議場内は、理事者席はフラットだが、議員席は段差を設けスロープを設置している。議長席の段差にはスロープはなし。

傍聴席には車いす利用者を想定した席を４席確保

聴覚障がい者を支援するため、磁気ループを設置しているが使用実績はなし

多機能トイレは各階に設置。点字ブロックは、障がい者団体の要望を受け、供用開始から２年後に追加で敷設

車椅子の議員や理事者、体格の違いに配慮し、演台と質問者席を昇降可能なものとした。

・ 子育て世代への配慮

個室のガラス張りの傍聴席は設置されていない。議場に入りづらい人でも会議中継を視聴できるようロビーに椅子とディスプレイを設置している。インターネット中継を実施しているためどこでも視聴できること、建設費用や利用状況からも設置をしない選択をした。

・ その他

エレベーターを降りてすぐの議場傍聴者入口横に、デジタルサイネージが設置されている。全庁的にエレベーター前に設置されているもの。２画面あり、１つは市の広報が流れ、１つは議会事務局で管理し会議案内等を表示している。動線的に目に入りやすい場所に設置されている。

議場内には、ＡＩ同時反訳の字幕表示モニターが２台、採決結果や残時間を表示するモニターが１台、ネット中継画面を表示するモニターが１台あり、カメラは４台設置されている。マイクは議場内の理事者席、議員席等の各席に設置。電源コンセントも各席に１口ある。

議員席は段差があり議長席から目視での確認が容易だが、理事者席は議長席の左右に配置され床もフラットであるため目視の確認が困難。そのため、理事者席マイクにのみ「発言要求スイッチ」がある。

(ｳ) ＩＣＴの活用

・ 電子採決

導入済み。押し間違えなどの対応は、運用でカバーしている。

・ ＡＩ同時反訳（字幕表示システム）

令和７年に、傍聴環境及び視聴環境向上のため、ＡＩ同時反訳を導入。ネット中継時も画面下部に表示。議場内へは、後付けで表示モニターを２台設置

・ 委員会中継

２つの会議室（第１委員会室、第２～４委員会室を連結して１室として使用）に議場と同様の中継システムを導入している。カメラは前後に２台設置。操作

のために記録専門の職員（記録係長）が１名いて、委員会の録音・録画を業務としている。なお、第２～４委員会室の稼働壁を設置し、個別の委員会室として使用する際（臨時会の委員会等）は、それぞれの委員会室にカメラ等がないため録画中継はできずしていない。

マイクは赤外線ワイヤレスマイクを導入したが、会議時間が長くなると電源確保が困難なため有線で使用している。有線の方がワイヤレスよりも音声が安定している。

(ｴ) 諸室

・ 会派控室

議員一人当たりの平均面積１０㎡。控室のみでなく、執務室として設置（建て替え前から会派控室を執務室として使用）。机、椅子の他、パソコン、プリンターを設置

直近の改選で少数会派や無所属議員が増えたため、会派控室の割振りに大変苦慮しているとのこと。会派控室のあり方は、よく考えて建設した方が良いとのアドバイスがあった。

・ 委員会室

第１委員会室から第４委員会室までがあるが、通常、第２～４委員会室はつなげて大きな１室として利用している。可動壁を使い各委員会室として使用するのは、臨時会の委員会開催時のみ。

全議員が出席する会議の開催自体が少ないため、予算特別委員会の全体会や改選後直ぐの全協は議場で、研修会は委員会室を連結した部屋で開催している。

・ 図書室

議会事務局横の議会ロビーに隣接した場所にオープンスペースで設置。市議会を訪れた市民にとって開かれた場所としているが、特に広報等していないため限定的な利用となっており、市民の利用実績はほとんどない。

蔵書数は 1,959 冊

・ 相談室、応接室

議員応接室を３部屋設置。会派控室に理事者や市民は入れないため、理事者や市民と話をする際に使用している。

(ｵ) セキュリティ

議会フロアへは、東西にそれぞれ設置されたエレベーターと階段からアクセスしますが、西側エレベーター（階段）前にはカードリーダーを設置し、議員、職員の入退室を制限している。また会派控室の扉、エレベーター内にもカードリーダーを設置し、カードキーがないと開かない。東側エレベーター前には、カードリーダーはないがガラス扉があり、扉内に議会事務局カウンターがあるため、議会事務局カウンター前を通らないと、会派控室や委員会室があるフロアには入ることができない。議会事務局前に防犯カメラが設置されている。

⑵ 埼玉県越谷市議会

ア 日時 令和８年７月１０日（金）午前１０時～正午

イ　場所　　越谷市役所

ウ　対応者　越谷市議会事務局　次長兼議事課長　藤波　孝之　氏
　　越谷市議会事務局議事課　副課長　東條　紘　氏
　　ほか　越谷市議会事務局職員　１名

エ　内容

越谷市役所は、同じ敷地内に３つの庁舎があり業務を行っている。そのうちの第３庁舎は中核市に移行する際に業務が増加することを見越して建設したもの。新庁舎は８階建て、７階と８階が議会施設となっている。

７階には、事務局と会派控室や応接室、正副議長室が配置。８階には２つの委員会室と議場が配置されている。

(ｱ)　議場（議会施設）の多目的利用

「開かれた議会」の実現に向け、議会空間の多目的利用を検討。第１委員会室の一部を展望ラウンジとして使用し、市民に開放している。定例会中は展望ラウンジは閉鎖、可動壁をなくし広く第１委員会室として使用している。またエレベーターホール正面の配置で室内にはモニターが設置されており、傍聴時の休憩室や傍聴席が満席の場合に利用することを想定している。

議場は、議会機能を優先。学生議会、議場見学会での利用にとどまっている。

(ｲ)　議場の傍聴環境

・　障がいのある方への配慮（バリアフリー化）

議場内、理事者席、議員席ともに段差を設けスロープを設置している。議長席の段差にはスロープはなし。傍聴席には車いす利用者を想定し、広くスペースを確保。聴覚障がい者を支援するため、磁気ループを設置している。毎定例会、１名の方が利用。手話通訳と要約筆記は、事前に希望があれば議会事務局で手配

多機能トイレは各階に設置。車椅子の議員や理事者、体格の違いに配慮し、演台と質問者席を昇降可能なものとした。

・　子育て世代への配慮

個室ガラス張り傍聴席を「親子傍聴席」として設置。定員はあえて定めていない（議長の許可した人数）。事務局的には、親子に限定せずに誰でも利用可とした方が利用があったのではないかとのお話だった。利用実績はほぼなし。

・　その他

議場内には、モニターが複数設置され、採決結果や残時間を表示したり、資料を投影している。

カメラは４台設置され、マイクは議場内の理事者席、議員席等の各席に設置

(ｳ)　ＩＣＴの活用

・　電子採決

導入済み。押し間違えなどの対応は、運用でカバーしている。

・　ＡＩ同時反訳（字幕表示システム）

未導入

・　委員会中継

２つの会議室（第１委員会室、第２委員会）に議場と同様の中継システムを導入している。カメラは前後に２台設置。操作のための専門職員が１名いて、委員会の録音・録画を業務としている。配信業務は業務委託

(ｴ)　諸室

・　会派控室

議員一人当たりの平均面積９．６㎡

控室のみでなく、執務室として設置（建て替え前から会派控室を執務室として使用）。机、椅子のみ配備

会派人数の増減にも対応できるよう、会派控室の仕切りを変更できるような壁として整備。令和５年改選で実際に１つの部屋を２つにわけるため間仕切り壁（可動式のスチールパーテーション）を設置したが、工期は２か月、費用は９６万円

・　委員会室

第１委員会室、第２委員会室、第３委員会室がある。基本、議会のみの利用としており、委員会の開催は、第１、第２委員会室を使用している。

・　図書室

書庫と一体的に整備することで面積を確保（４８㎡→６０㎡）

資料等の閲覧スペースを確保することが目的

・　相談室、応接室

旧庁舎では応接室が１か所しかなかった。新庁舎では市民相談等の部屋として市民相談室を整備。現在、２か所で市民相談等ができるようになっている。

(ｵ)　セキュリティ

７階の議会フロア（会派控室、正副議長室、応接室、相談室、図書室、議会事務局）には、南北にそれぞれ設けられたエレベーターと階段からアクセスするが、それぞれの出入口前にはセキュリティゲートが設けられており、カードキー又はインターホンによる確認後の開錠が必要（セキュリティゲートは庁舎全体に設けられている。）。だたし、北側のセキュリティゲート前に議会事務局があるため、扉は常に開放されており、防犯カメラが設置されている。南側セキュリティゲートからアクセスする市民は、インターホンでの議会事務局による確認が必要。

８階の議会フロア（議場、第１委員会室、第２委員会室、展望ラウンジ）は、議会開会中は原則閉鎖されている。議会がない時は、展望ラウンジは誰にでも開放されている。

５　所感

「市民に開かれた議会を実現するための議会施設のあり方」を検討するための視察であったが、「開かれた」の言葉の解釈によって、市民対応をどうすべきかはしっかり検証する必要があると感じた。

府中市役所の議会棟は、地域産材を活用し、日光や間接照明を活かした大変暖かみのあ

る空間となっていた。また、現庁舎「おもや」の隣に「はなれ」と呼ばれる市民交流のための庁舎を現在建設中であり、そちらの棟と議会棟の傍聴ロビーが直結する計画であることからも、市民に議会を知ってもらうための取組みもしやすいように感じた。

越谷市役所の議会棟は、委員会室の一部を展望ラウンジとして公開しており、視察時も市民が利用していたことから、その空間を利用しての何らかの取組みの可能性も今後考えられることから、やはり市民に議会を知ってもらうための取組みはしやすいと感じた。

議場の設備の関係では、両市議会とも採決システムを導入していた。採決システムは必要と考えるが、議員席に個別マイクを設置することについては、議場の使用方法も含めて検証が必要と感じた。また、議場内のモニターは、傍聴者への配慮という点からも十分な設置を求めたい。ＡＩ同時反訳（字幕表示システム）は、府中市議会で供用開始後、機器を追加して実施したということだったが、必須と考える。縦書きか、横書きかを検証し、常に３～５行ぐらいは残るようなものがいいのではないか。

磁気ループシステムについては、傍聴席だけでなく、議場全体にあった方がよいと考えるが、府中市のように議場の議員席と理事者席にイヤホーンの差込口があれば、また、傍聴席にも設置されれば、イヤホーンさえ持参すれば対応できるため、磁気ループシステムは必要ないのではないかと感じた。

システム関係の導入については、全国的に使われている最先端のシステムを採用すべきと思う。

セキュリティの面では、やはり議会棟部分には、職員と議員以外の人は事務局窓口を通過しなければ中へ入れないようにする必要があり、その上で会派控室の施錠は必要と思う。

本市においては、限られた面積の中での新庁舎建設となることから、条件は厳しいかもしれないが、その中でより良い議会棟となるよう、これらの視察結果を参考にしっかり検討を進めていきたい。

６　視察配布資料

別添のとおり

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		⑴　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		⑴　議会施設について

１　府中市議会

⑴　参考となる視察項目について

ア　無線ＬＡＮ

新庁舎のコンセプトとして全庁的に無線通信環境が整備されているが、市議会のタブレットを使用するための通信環境として、無線ＬＡＮの区域を職員用と区別して設置していた。

イ　議場の映像機器

大型ディスプレイ３台とカメラ４台を設置。追加で傍聴席側のディスプレイに字幕表示を導入した。

ウ　各席のマイクユニット

発言要求スイッチは押すと議場席のモニターで分かる仕組みになっていた。タブレットの充電用としてコンセントは必須だが、委員会室にはない。

エ　質問席

質問席の机には自動昇降機能が備わっており、車椅子の方や体格の大きな人に対応できる。

オ　セキュリティ

各会派控室ドアや議会フロアへと続くエレベーターホール前のドアにはカードリーダーがあり、カードキーをかざさないと中には入れない。一般の方は必ず議会事務局のエントランスを通って必要な手続きをしないと入れない動線になっていた。

カ　磁気ループシステム

議員席と傍聴席に聴覚障害者支援のための磁器ループシステムが設置されているが、３年間で使用実績はない。

キ　点字ブロック

竣工当時は設置されていなかったが、竣工後に視覚障害者からの意見を踏まえ、令和７年に追加工事を行ない設置した。

ク　会派控室

議員一人当たりの面積は 10 ㎡で、控室の他、執務を行う場所としても使用している。

会派室の壁は可動しないため、会派人数等が大きく変更になった際に会派室の

広さを変更することは困難であると伺った。

ケ　傍聴ロビー

子ども連れ等、議場に入りづらい人でも議会中継を傍聴できるよう、傍聴席の外側にディスプレイ、天井スピーカー、ベンチを配置した傍聴ロビーを整備

コ　議場や傍聴席はバリアフリー化されているが、議会事務局の執務室側はバリアフリー化されておらず、狭くて車いすでの入室が困難とのことで執務室にも配慮が必要であるとの話を伺った。設計時の参考としたい。

2　越谷市議会

⑴　参考となる視察項目について

ア　本会議・委員会の配信（ライブ、録画）

議場はカメラ４台、マイクは議員及び執行部ともに 1 人 1 台設置。発言残時間の管理や採決システム、カメラ操作などのオペレーションは 1 人の職員で対応している。これは発言残時間の管理が、質問と答弁を合わせての総時間でカウントしているということもあり、可能となっていると思われる。

委員会室は、第１委員会室（最も大きい）と第２委員会室にカメラ２台、マイクを１人１台、議場システムと同様のシステムを設置し、２委員会同時配信に対応できるように整備している。第３委員会室には未整備

委員会中継の配信については、専門の業者に委託しているので間違いはないとの話を聞いた。本市議会も参考としたい。

イ　親子傍聴席

定員は議長の許可した人数として、あえて人数を決めていない。室内にはモニターはなく、音声はスピーカーによる。

ウ　磁気ループシステム

基本計画で導入。対応するイヤホンは 10 台。事前に要望があれば手話通訳の手配も可能

エ　会派控室

1 人当たりの面積は約 9.6 ㎡。改選で会派人数の大きな変更があったため、可動式のスチールパーティションで仕切りを設置した。最大で 10 室設置可能

オ　セキュリティ

南と北の２か所に階段とエレベーターがある。北側には議会事務局があるため日中は扉を開けているが、南側は常に施錠しており来庁者はインターホンで確認のうえ開錠する運用。議員と職員はカードキーで開錠できる。

カ　竣工後に追加した内容

質問・答弁が聞きづらいという声があったことから、傍聴席にスピーカー２台を増設。

庁舎の安全管理のため、事務局付近に防犯カメラを設置

南側からの来庁者が多かったため、事務局から南側セキュリティゲートの遠隔操作が可能となる開錠ボタンを配置

3　所感

２市ともに、市民にとって身近な議会となるよう、議会事務局の目視が入ることで保たれるセキュリティと、開錠にカードキーやインターホンによる確認が必要な関係者以外の立ち入りを制限するセキュリティゲートが設置されており、セキュリティのバランスが保たれていて非常に有効な方法であると感じた。

傍聴ロビーからそのまま議場へ入るのではなく、受付けの都合上、傍聴ロビーと議場との間隔を保ち、傍聴席へ入る前に事務局があるのが理想的だという経験談をお聞きしたので参考としたい。

府中市は、親子傍聴席を設けない代わりにその役割を代行する傍聴ロビーが設置されていた。越谷市は親子傍聴席を設置していたが利用実績は少ないと伺った。越谷市で草加市の「誰でも傍聴席」の事例を紹介いただいたが、親子に限らず色々な市民が利用しやすい個室傍聴席とするのも良いのではないかと思った。

会派控室の壁は、一人会派が増えた場合も使い勝手が悪くならないように、また工事費を抑制するためにも、議員と事務局で一緒に考えた方がよいと伺った。越谷市のように最初から会派構成の変更に対応できるよう、防音機能を備えた可動式のパーティションで仕切りを設置したり、出入口の扉は予め多めに設置するなど、しっかりとした考えを持って設計する必要があると強く感じた。

両市の事例から、竣工後に追加された工事や、新庁舎運用後に明らかになった課題等を学ぶことができ、今後の議会施設の整備に大いに参考となる有意義な視察となった。

令和８年７月３１日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営副委員長　中島　昌子

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

１　東京都府中市議会

・　議場傍聴席の後ろ側に傍聴者出入口があり、そこを出たところに傍聴ロビーとしてのスペースがある。そこにはディスプレイと椅子が設置され、このスペースでも傍聴ができるようになっていた。傍聴している途中で退席せざるを得ない場合でも議場内の様子が分かること、また、外から気軽に議場内の様子が分かるという点は参考になると感じた。

・　会派室は、控室としての機能の他に執務室として利用ができるように整備されている。もともと執務室として会派控室を使用していたということだが、会派控室の在り方の検討とするところであると考える。

・　説明の中で、セキュリティと来訪のしやすさという発言があり、この視点は議会フロア全体を検討するにあたり重要なキーワードであると感じた。エレベーターを降りた正面に議場ロビーがあり、事務局から議場出入口は見える場所になかった。議場ロビーと議場の出入口、そして事務局の配置は、その点よく検討するところと感じた。

・　会派室は基本、会派に所属する議員以外は入室ができないことになっているため、議員応接室が設けられていて、ここを市民相談時や理事者との一般質問の聞き取り時に利用するとのこと。応接室、相談室の確保の参考としたい。

・　議場の多目的利用は行っていなかった。検討時に、議会本来の機能や権能の維持、通年議会の可能性、運用方法、議場以外の施設利用などを考慮した結果の判断とのこと。

・　ＡＩによる同時反訳は、建設時には設けていなかったが、市民の声を受けて最近設置したとのことだった。後付けの設置となったため、議場内にディスプレイが多かった。傍聴者への配慮という点でも、必要な機能と感じた。

・　委員会室の壁については可動式となっていた。会議の大小によって３つの部屋に区切って使うことができるが、通常は区切ることなく、大きな１つの委員会室として利用しているとのことだった。同時に複数の委員会を開くことが少ないということだったが、大変参考となった。

・　地元の木と光をふんだんに取り入れた議場は、暖かみを感じる空間だった。

２　埼玉県越谷市議会

・　議会スペースは、７階と８階の２フロアの配置となっている。構造上このような配置であるが、１フロアの方が、セキュリティや利用面などから利用しやすいと感じた。本市の新庁舎建設基本計画のゾーニングのイメージ案では、議会フロアは２階から４階までの３フロアに分かれている。限られた面積の中での建設になるため仕方がない事だが、どの階に何が置かれるのか、セキュリティの面からも慎重な判断が必要と感じた。

・　議場はバリアフリー化していたが、理事者側のスペースが狭く、車いすの利用の対応が難しいとのことで、議場全体でバリアフリー化を検討する事の大切さを感じた。

・　電子採決システムを導入したことで、会議規則の一部改正をしていた。運用面での充分な工夫や配慮が必要と感じた。

・　会派控室については、可動式パーティションを設置し、会派の人数の変化に対応できるように建設していた。具体的には、会派構成により、一つの部屋を２つに区切る間仕切り設置工事を、工期に約２か月、96 万円をかけて行っていた。建設時に壁の設置を見越して整備していたとのことだが、会派控室の間仕切りについては、さらに他の方法も含めて充分調査する必要があると思う。

・　諸室としては、市民相談室、応接室の整備がされていたが、18 ㎡の市民相談室は狭く、もう少し広いスペースが必要と感じた。

・　傍聴席と議員席の間に透明のパネルが設置されていた。これは新庁舎完成後、傍聴席と議員席との距離が近いことから、後の工事によって設置したとのこと。議場の作りによっては、傍聴席と議員席との間に透明パネルのような仕切りを設置する要否についても検討が必要となる。傍聴席と議員席の高さや距離については、慎重に検討する必要があると感じた。

・　議場内の傍聴席の一角には親子傍聴室が設けられていたが、利用はほぼないとのことだった。職員の方もおっしゃっていたが、「親子」をターゲットとしたスペースとしてではなく、幅広い方の利用を想定した利用とする方がよいと考える。また、このような親子傍聴席の代わりに、議場傍聴席の後ろ側の壁を一部ガラス窓にして、ロビーから議場内を見えるような形に整備することで、対象者を限定しないスペースが確保できると考える。

・　今回の視察では、新庁舎議会施設竣工後に追加した工事についてもいくつか確認することができたので、そのような調査を行うのも有効と感じた。

令和８年７月１６日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

松本市議会議長　阿部　功祐

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		⑴　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		⑴　議会施設について

１　東京都府中市議会

⑴　府中市の概要

東京都のほぼ中央に位置し、南端には多摩川が流れ、市域全体が武蔵野台地上にある。人口約 26 万人。古くは武蔵国の国府が置かれた地で、甲州街道の宿場町として栄えた。戦後に日本電気や東芝、サントリーの大規模工場が立地し、住宅都市として人口が増加した。東京競馬場があるほか、ラグビー・サッカー・バスケット等のプロチームのマザータウン

⑵　議会施設について

府中市では、平成 21 年に行った耐震診断で耐震性能が指標を下回っていることが判明した。翌年・平成 22 年の東日本大震災で庁舎にひび割れ等を確認、平成 23 年に庁舎建設基本構想を策定した。令和３年から建設を開始。今回の視察時には、一部の工事が続いており、令和９年１月から完全稼働予定という。

新庁舎整備事業は、「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」を目指して行われた。実現に向けた基本方針は以下のとおりで、庁舎の主たる機能を担う「おもや」と、庁舎機能を補完し市民協働を支える「はなれ」、市民に開かれた「通り庭」で構成されている。

１．市民に開かれ、人々の多彩な活動が生まれる庁舎

２．災害時に庁舎機能を確保できる庁舎、環境負荷低減に配慮した庁舎

３．時代やニーズの変化に対応できるフレキシブルな庁舎

４．府中の魅力を象徴する、まち、自然と一体になった庁舎

整備事業の一環として、議会機能を充実させ、市民に開かれた議会を目指して、議会施設の整備が行われた。議会施設は「おもや」の５階に配置されており、議場には最新の音響・映像設備や電子採決システムを導入、車椅子スペースを４席分確保するなど、傍聴環境の向上にも配慮がなされている。バリアフリー化や防災拠点としての機能強化も図られているほか、武蔵野の地に古くから根付く３種類の天然木を壁面に重ね合わせて、温もりのある空間となっている。

主な視察項目と注目した点は、次のとおり。

ア　議場の形式、設備、傍聴者対応

レイアウトは前後対面式、電子採決機能、ＡＩによる自動翻訳（字幕）あり。

聴覚障害者を支援する磁器ループを設置したが、使用実績なし。

防音の傍聴個室はなし、特に検討はされなかった。

イ　委員会室の仕様、設備、運用

委員会室は４室で、一部壁面可動式、撮影機能あり。

ウ　諸室（会派控え室、図書室等）の内容と運用

議長室・副議長室・正副議長応接室・議員応接室３室・説明員控室と充実

議員１人当たり 10 ㎡という計算で、執務室機能を有する大小の会派室 10 室

エ　議会施設の多目的利用

そもそも議会棟検討委員会が想定しておらず、「コンサートなど、予約を伴うものはそぐわない」といった考えのもと、使用予定はない。

オ　セキュリティの確保（議員の動線等）

議会エリアの出入口のメイン動線は、議会事務局の前を通過。他エレベーター部分は、ＩＣカードで管理

カ　開かれた議会を実現するために工夫した部分

議会図書室を一般に公開しているが、市民の利用はほとんどない。

キ　供用開始後の状況、想定と異なった部分

視覚障がい者の意見を受けて、点字ブロックを追加で敷設した。

⑶　府中市役所議会棟視察の所感

議会棟全体が「市民に開かれた議会」を意識して設計されており、議会機能と行政機能の連携が図られている点が印象的であった。ＩＣＴの活用による議会運営の効率化や、災害時にも継続して行政機能を維持できる施設設計は、本市においても参考となる点が多い。 また、議場の設備だけでなく、議員・職員の動線やセキュリティ対策まで細かく配慮されており、機能性と安全性を両立した施設である。防音の傍聴個室の設置はなく、検討もされなかったとのことであるが、唯一この点については残念。私は必要性を痛感している。

今後、本市における庁舎や議会施設の整備を検討する際には、市民サービスの向上や防災機能の充実という観点からも、府中市の取組みを参考にしたいと思う。

２　埼玉県越谷市議会

⑴　越谷市の概要

埼玉県の東南部に位置する中核市で、人口は県内第５位の約 34 万人。多くの河川が市内を流れていることから、「水郷こしがや」と呼ばれる。江戸時代には日光街道の宿場町として栄え、近年は東京近郊のベッドタウンとして発展。1996 年から市東南部に越谷レイクタウンが整備され、日本最大のショッピングセンター「イオンレイクタウン」が開業して、年間約 5,000 万人を集客している。

⑵　議会施設について

越谷市役所は、老朽化や耐震性不足への対応として建て替えが行われた。検討開

始は平成 24 年、同 26 年に基本構想策定、同 30 年に基本設計公表、令和３年に新庁舎が供用開始された。なお、越谷市は、この間の平成 27 年に中核市に移行した。

議会棟についても、防災拠点としての機能や市民サービスの向上、議会機能の充実を目的に整備されている。議会フロアは、本庁舎７階に議会事務局と会派控え室など、８階に議場と委員会室などがある。

主な視察項目と注目した点は、次のとおり。

ア　議場の形式、設備、傍聴者対応

レイアウトは前後対面式、電子採決システム、質問時に使用する議場モニターを導入、バリアフリー化

「親子傍聴席」（個室）を設置したが、実績は少ない。

磁気ループを設置したが、利用は固定した人に限られ、実績は少ない。

イ　委員会室の仕様、設備、運用

委員会室は７階に１室、８階に２室（うち１室は、可動式間仕切りで３室として使用可能な大会議室）。委員会中継設備が整備されている。

ウ　諸室（会派控え室、図書室等）の内容と運用

正副議長室、応接室、市民相談室を設置。

会派控え室は最大で 10 室設置可能で、議員 1 人当たりの面積は約 9.6 ㎡、会派構成により可動式のスチールパーテーションで仕切りを設置する。

更衣室の奥に、畳敷きの休憩場所が設置されている。

エ　議会施設の多目的利用、展望ラウンジ

「議場を市民、議員、行政がともに利用できる環境に」として、議会空間を多目的利用する方針

可動式間仕切りで委員会室に隣接する展望ラウンジと、モニターが設置された展望ラウンジがある。

オ　セキュリティの確保（議員の動線等）

議会事務局のある側は、日中は扉を開放。常時施錠の側は、議員と職員がＩＣカードキーにより解錠

カ　開かれた議会を実現するために工夫した部分

本庁舎入口付近に傍聴を促すポスターを掲示するなど

キ　供用開始後の状況、想定と異なった部分

傍聴席にスピーカーを増設、事務室付近に防犯カメラを設置した。

⑶　越谷市役所議会棟視察の所感

越谷市の議会棟は、「市民に開かれた議会」を意識した設計という印象が強かった。議場は見通しが良く、傍聴席や動線にも十分な配慮がなされており、誰もが利用しやすい環境が整備されている。 また、委員会室や会議室にはＩＣＴ設備が充実していて、円滑な議会運営や資料の電子化への対応が進められている。災害発生時

には議会機能を維持できる設備や危機管理体制も考慮されており、防災拠点としての役割も十分に果たせる施設であるとも感じた。 越谷市議会が「市民に開かれた議会」と「災害に強い議会施設」の実現を目指して整備を進めてきたことを学ぶことができた。

１点だけ気になったのは「親子傍聴席」。せっかく防音の個室を設置したが、実績は少ないと聞いて、子ども連れ専用かと思いがちな名称が災いしているのではないかと考えた。誰でも使って良いということが充分に伝わるような名前に変えて、多くの方々に活用されるようＰＲしてみてはどうだろう。

今回の行政視察を通じ、視察先の府中市でも、越谷市でも、東日本大震災後頃から新庁舎建設の必要性と向き合い、検討と議論を積み重ねて計画を立て、着々と実現に向かってきて今があることを目の当たりにした。本市における市役所新庁舎建設の検討も、同じ頃に始まっていたはず。近年、建設に要する費用は、過去に類なく高騰している。「あの時、こうしていたら」などと言ったところで詮無きことながら、「古屋の造作」で現庁舎に補修費用が必要となるたび、ため息が出る。

令和８年７月２０日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

松本市議会副議長　吉村 幸代

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

この度の議会運営委員会の行政視察では、市役所新庁舎の基本設計等に反映する、議会施設に関する議会の考え方について検討を進めるため、近年、市役所庁舎の建替えに伴い、議会施設を更新した先行議会として、東京都府中市議会・埼玉県越谷市議会（訪問順）を訪ねました。

本市の市役所新庁舎は、令和７年１１月２６日に、特別委員会の承認を経て、建設基本計画改定版が策定され、現在、基本設計の着手を目指し、設計施工業務の発注に向けた取組みが進められているところです。議会施設については、令和８年４月１３日に、市長から議長に対し、市役所新庁舎の設計条件等の整理に向けた議会施設に係る意見聴取の依頼が書面にてあり、以降、議会運営委員会において、その対応に取り組んでいます。今回の行政視察も、この営みの一環として実施されました。こうした状況を踏まえ、本視察で私は、「開かれた議会の実現」と「セキュリティの確保」のバランスを図る工夫に着目し、両市議会に対して以下の質問を事前に送付したうえで、この点に係る考察を深めるべく現地に向かいました。

【質問】「市民が訪れやすい施設整備とセキュリティ確保とのバランス」を図りながら、「市民が自由に出入りすることができるエリアを決定」するにあたり、工夫した点や苦労した点があれば、ご教授ください。特に「市民と議会の距離をより近づける工夫」として、傍聴の前後に限らず、市民が日常的に訪れ、心地よく過ごすシーンを想定しながら整備した空間があれば、その内容と検討経過、整備後の利用状況について、ご教授ください。

まず、府中市議会の書面（当日配布資料）による回答は、以下のとおりです。

【回答】セキュリティについてですが、議会エリアの出入口は、東側のエレベーターホール横の議会エントランスをメイン動線としております。このことにより、議会や議員を訪れる市民の方などについては、必ず議会事務局の前を通って議会エリア内に入ることになります。なお、西側のエレベーターと階段がある部分につきましては、議会エリアへの出入口の扉をＩＣカードで管理しますので、関係者以外は西側からは入ることができない設計となっております。市民が出入りできるエリア、といった部分については、議会図書室を議会ロビーに隣接した場所でオープンにすることで議会を訪れた市民にとっても開かれた空間としておりますが、実際には、図書室の市民利

用については積極的に周知しているものではなく、市民利用はほとんどありませんので、市民が日常的に訪れやすい空間といったところは課題と言えるかもしれません。

次に、越谷市議会の口頭（当日説明）による回答は、以下のとおりです。
【回答】南側のエレベーターを８階で降りてすぐ、議会エリアに入るセキュリティゲートの手前に、第１委員会室の一部を可動式間仕切りで区切った「展望ラウンジ」を設けており、定例会会期中以外は、市民に解放しています（定例会会期中は可動式間仕切りを解放し、「展望ラウンジ」のスペースも第１委員会室として使用）。元荒川への眺望がよく、市民に親しまれています。

両市議会に共通する設計上の工夫として、議会フロアのエレベーターを降りた地点からセキュリティゲートに至るまでの間に、市民が自由に出入りできるエリアを設けている点が挙げられます。ただ、府中市議会のように、目的が限定され専門性も高い議会図書室のような議会施設を市民に解放するよりも、越谷市議会のように、多様な目的が想定され専門性も問われない「展望ラウンジ」のようなスペースを市民に解放する方が、市民も親しみを持ってその場所を訪れることが叶い、市民と議会の距離を近づけることに資する設計上の工夫となる印象を受けました。一方、府中市役所は、２期工事で建設中の、市民協働を支える「はなれ」の屋上「展望テラス（屋上緑化）」に、議会フロアから（エレベーターを降りた後、セキュリティゲートを通ることなく）「屋外ブリッジ」で渡ることのできる設計となっており、「はなれ」竣工以降、市民の動きがどのように変化するか、注目したいところです。

また、両市議会に共通して、議場の傍聴席の入口手前に、傍聴の手続き不要で市民が自由に出入りでき、滞在できるスペースが設けられており、議場の様子が中継される大型モニターが設置されていました。府中市では「傍聴ロビー」、越谷市では「ラウンジ」と称されたこのスペースはいずれも、エレベーターを降りた地点から一段高いところにある傍聴席の入口に上がる階段の先にあり、同じスペースに上がるための窓際（壁沿い）のスロープを背にソファが置かれ、傍聴席入口頭上のモニターを視聴する構図となっていました。ただ、ソファから傍聴席入口までの距離が短く、「ロビー」や「ラウンジ」と呼ぶよりは、やや幅の広い廊下といった印象で、扉１枚隔ててその先には議場が広がっているため、この位置にこの設備及び環境を拵えることが、どの程度効果的で需要があるのか、やや疑問に感じました。それよりも、例えば１階メインエントランス直結の「ロビー（府中市）」や「エントランスホール（越谷市）」に同様のモニターを設置して、来庁した市民誰もが議会中継に目を留める動線を設計する方が効果的では、と感じた次第です。

併せて、この空間構成の場合、市民は傍聴の手続きを経ることなく、傍聴席の入口付近まで進むことができるため（もちろん本人に悪気がない場合を含め）、傍聴席への入

場管理（及びセキュリティ管理）にオペレーション上の難しさを伴う印象を受けました。特に、越谷市役所では、傍聴手続きを行う議会事務局が７階にあり、議場は８階にあるため、市民の動きを追いきれない場面もあると想像します。松本市役所建設基本計画改定版の平面計画・階層計画に基づくと、平面計画では「議会スペース」がⅠ期棟の２・３・４階に、階層計画では「議会フロア」がⅠ期棟の３・４階に、それぞれ想定されており（平面計画と階層計画で不一致があるものの、いずれにせよ）、議会エリアが複数階に跨がる計画となっています。（議場の傍聴席の入口付近に視聴用モニターとソファ等を設け、傍聴手続き不要で市民が自由に出入りできる空間を用意する設計とする場合は特に）議会事務局の窓口（カウンター）を、どの階のどの位置に配置するかという点が、「開かれた議会の実現」と「セキュリティの確保」のバランスを図る上で、極めて重要な検討ポイントになると考えます。

以上、議会施設に係るこの度の委員会視察での学びについて、「開かれた議会の実現」と「セキュリティの確保」のバランスを図る設計上の工夫という観点から報告しました。

今回の視察を通じて両市議会から得た学びを活かしながら、この先、必要な検討と熟議を重ねるなかで、本市の市役所新庁舎の議会エリアが、必要なセキュリティは確保しつつも、市民に身近な空間として、設計・施工されていくことに期待を寄せて、この報告を結びます。

令和８年７月２８日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　菊地　徹

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

松本市議会議会運営委員会では、新市庁舎整備に伴う議会施設設備のあり方を検討するため、府中市議会及び越谷市議会を視察した。両市の取組みは、市民に開かれた議会運営や議会機能の充実に資する一方、敷地及び階層の制限がある本市での導入に当たっては、設備、運用、維持管理の各面で慎重な検討が必要であると感じた。

１　東京都府中市役所（人口 261,000 人、議員定数 30 名）

府中市役所議場は、新庁舎「おもや」の５階に品格や市民に開かれた印象を重視した整備がなされており、議会機能のあり方を考える上で参考となるものであった。フロアは木のぬくもりにあふれた内装となっており、壁面に応じて天然木を使い分け、デザイン性や高機能化が重視されていた。

しかし議員定数 30 名に対して容積が大きく、音響、照明、映像機器等は技術進歩が速いので、将来的な設備更新や維持管理の負担が増加する可能性がある点には留意が必要であると感じた。

議場、傍聴席、委員会室、議員控室等の配置により、議会開催時の移動や議会事務局の対応が煩雑となり、円滑な議会運営に影響を及ぼすことも考えられる。

また議員控室については、会派ごとの執務、打合せ、資料確認等に対応できる機能が求められるが、固定的な区画とする場合には、将来の会派構成や議員数の変化に柔軟に対応しにくいという課題があるのではと感じた。

議場が庁舎内の上層階等に配置されると、傍聴者や来庁者の動線が長くなり、高齢者や障がいのある方にとって利用しやすい環境を確保することが重要となるが、エレベーターを降りるとすぐに傍聴席に着く配慮がされていた。子供連れ用の個室の傍聴席（防音ブース）は無かったが、傍聴ロビーでのモニター視聴が可能で気兼ねなく傍聴ができるよう整備されていた。また議会図書室がオープンスペースとなっており、資料や新聞等大変利用しやすい環境であると感じた。

令和９年には、現在建設が進む市立図書館及び多目的スペースの「はなれ」が供用開始となり、前庭と併せ新市役所が本格的に稼働していくとのことである。本市においても外観や内装の質を高めるだけでなく、様々な制限のあるなか、実際の議会運営や、市民の相談のしやすさを十分に踏まえた設計とする必要があると強く感じた。

2　埼玉県越谷市役所（人口 342,000 人、議員定員 32 名）

越谷市役所議場では、本会議や委員会の映像配信を意識した施設整備が行われており、市民への情報公開を進める上で有効な取組みであると感じた。特に、カメラや音響設備を活用した議会中継は、議会への関心を高め、市民が議会活動を把握しやすくする点で大きな意義がある。

しかし、ライブ配信や録画配信を拡充する場合には、個人情報の取扱い、発言取消しへの対応、休憩中の音声・映像管理など、運用上のルールを明確に定める必要があるのではないか。

議員控室については、議場や委員会室との近接性を確保することにより議会運営の効率化が期待される一方、十分な面積や会派ごとの使いやすさを確保しなければ、会議前後の打合せ、資料整理、来客対応等に支障が生じる可能性がある。十分な政務活動費が保証された越谷市議会では、控室の什器備品も活動費から賄えることに驚きを感じた。

しかし市民交流機能を重視した庁舎構成の中で、議員控室の静粛性、情報管理、セキュリティをどのように確保するかも課題だと思う。また最新の機材で構成された議場は、機器トラブルが発生した際のバックアップ体制や緊急時の代替運用をあらかじめ整備しておくことが必要ではないかと感じた。

議場全体の容積、レイアウト及び内装は、余裕がありつつも丁度良い広さと格調を感じた。傍聴席においては、親子傍聴席（防音ブース）が設置されていたが、利用頻度は限られており、磁気ループ設備と併せ必要性に疑問を感じた。

また、議員が市民及び理事者と相談や面談ができるスペースと部屋数が、議員数及びフロア全体から比べると少ないと感じた。

3　まとめ

視察した両庁舎議場は、間接照明と明るい色調の木材を多用しゆとりと豊かさを感じられる魅力ある施設であった。本市の新市庁舎議場設備についても、「開かれた議会」と「円滑な議会運営」をどのように両立させるかが大きな課題であることは言うまでもない。傍聴席の配置、議場映像の配信、音響設備、字幕等の情報については、市民参加を促進する観点から重要であるが、同時に運用体制や費用負担を伴う。議場設備は導入時の整備費だけで判断するのではなく、保守契約、機器更新、配信運用、人員体制を含めた永年のライフサイクルコストとして検討する必要がある。

議員控室についても、会派構成や議員数の変化に対応できる可変性、議会事務局や委員会室との近接性、資料管理や打合せに必要な静粛性・セキュリティを確保することが求められる。議員、理事者、議会事務局、傍聴者、報道関係者及び市民の動線についても、通常時だけでなく災害時や混雑時を想定し、建設予定地は限られたスペースではあるが、安全かつ分かりやすい計画となるように設計しなければならない。

時代が人口減少、建設費及び諸物価の高騰と大きな転換期を迎えている今、ＤＸ・デジタル化による庁舎の構築等を前提に、これからの時代に相応しさを見極め、質素ながら松本らしい議場、議会施設の実現を急ぎたいと思う。

令和８年７月１３日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　太田　正徳

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

１　東京都府中市議会

(1)　議会施設について

令和４年８月に供用開始。議会フロアは５階（最上階）にある。

ア　セキュリティについて

５階フロア全体を議会が使用しており、防犯カメラやカードリーダーが設置され、議会控室や議場フロアの入退室管理が徹底されている。

なお、本会議の傍聴席へは事務局を経由せずに到達できるため、運用により管理している（設計上の反省点）。

利用時間と施錠については、平日は 18 時に施錠している（内側からはカードリーダー等で解錠し、退館できる。）。

イ　バリアフリー・ユニバーサルデザインについて

磁気ループは議席および傍聴席の床下に敷設されている（利用実績は少数とのこと）。

傍聴ロビーには中継ディスプレイ、スピーカー、ベンチを設置し、傍聴席への段差解消スロープも整備されている。

車椅子席は傍聴席内に確保されており、点字ブロックは竣工後に追加整備されたとのこと。

ウ　会派室について

会派室は議員１人当たり約 10 平方メートルで、個別空調、放送スピーカー、有線ＬＡＮ、洗面台等を備えている。机、応接セット、ロッカー、テレビ、プリンター等の備品も配置されている。

実際には執務室として日常的に利用されている。固定壁であり可動間仕切りではないため、遮音性は良好だが、人数に変動がある場合は工事対応が必要とのこと。

１人会派の増加により、部屋割りの柔軟性が課題となっているとのこと。

エ　議会図書室について

議会図書室は議会ロビーに隣接し、市民利用も想定されているが、実際の利用は限定的とのこと。

オ　議員応接室（３室）について

議員応接室は、市民相談、執行部との打合せ、議員間協議に使用されている。

一般市民が会派室に入れない場合の受け皿として活用されており、本市でも検討が必要である。

カ　委員会室について

委員会室は、自治体によって開催方法や活用方法が異なる。複数の委員会が同時開催されないため、第２・第３委員会室を連結した大委員会室と第１委員会室で構成されている。

各委員会室には、インターネット配信用カメラ等が設置されている。

キ　本会議場について

本会議場は定数 30 席で、議長席、理事者席、演壇、質問席が配置されている。各席のマイクユニットには、発言要求スイッチ、イヤホン端子、コンセントを備えている。小型モニターでは残時間や採決画面を表示し、大型ディスプレイ２基では配信画面と字幕を場内表示している。

(ｱ)　電子採決は、全会一致でない案件等に採用されている。投票、誤操作確認、集計、確定の順に行い、押し忘れや誤操作は議長確認により是正する。

(ｲ)　字幕表示は竣工後に追加導入され、令和７年２月から運用を開始している。音声認識により文字化し、場内表示や配信に反映している。

(ｳ)　段差と視認性については、バリアフリーと挙手の見やすさを重視し、右側をフラット化している。

(ｴ)　議場の多目的利用については、開かれた議会の理念を踏まえつつ、議会機能の専用性、即応性、コストを考慮し、現時点では原則として実施しない方針である。

(ｵ)　親子傍聴席については必要性を認識しているものの、費用やスペースの制約により見送っている。現在は傍聴ロビーとインターネット中継で対応している。

２　埼玉県越谷市議会

⑴　議会施設について

ア　建設の経緯

(ｱ)　昭和 44 年建設の旧本庁舎は、平成 13 年の耐震診断でＩＳ値 0.11 という極めて低い数値が確認された。

(ｲ)　建替えは、東日本大震災による被害と、中核市移行に伴う業務量増加への対応が契機となった。

(ｳ)　議会フロアは７階（議員控室等）と８階（議場、委員会室）で構成されている。

イ　セキュリティ対策

(ｱ)　７階の議員控室には、常時施錠のセキュリティゲートが設置されている。

(ｲ)　ＩＣカードは議員・職員用として運用され、出退表示板システムと連動している。

(ｳ)　防犯カメラは、庁舎全体の安全管理の観点から北側扉付近に設置。

ウ　会派室について

(ｱ)　会派構成の変更に対応できるよう、スチールパーティションを採用

(ｲ)　最大 10 部屋まで分割可能で、出入口扉はあらかじめ設置されている。

エ　本会議場について

(ｱ)　電子採決システムは投票システムとして導入され、会議規則も改正されている。

(ｲ)　質問席は登壇席を含め、高さ調整が可能な仕様となっている。

(ｳ)　議場モニターには資料投影機能があり、使用に関する注意事項が策定されている。

(ｴ)　親子傍聴席は議場内に設置され、防音構造により外部への音漏れを防いでいる。

(ｵ)　磁気ループについては、聴覚サポート用イヤホン 10 台が用意されている。

(ｶ)　委員会中継設備により、２つの委員会室で同時配信が可能となっている。

オ　市民開放エリア

(ｱ)　展望ラウンジは８階の南側および北側に設置されている。

(ｲ)　定例会中はパーティションを開放して執行部用会議室として活用している。

(ｳ)　閉会中は市民に開放し、庁舎管理課による全庁的なＰＲに活用されている。

カ　その他

(ｱ)　傍聴促進の取組みとして、議会開会１週間前からポスター掲示による広報活動を行っている。

３　所感

⑴　セキュリティ対策について

議場、委員会室、会派室など議会関係エリアのセキュリティ対策は、両市とも十分に整備されており、重要であると感じた。一方で、両市とも傍聴席への出入りは議会セキュリティの外に位置していた点が気になった。

市民にとって議会を身近に感じられることは重要だが、セキュリティ対策についても検討が必要であると感じた。

⑵　防音性のある傍聴室の設置について

越谷市の議場には、防音性のある親子傍聴席が設置されていた。親子利用に限らず、防音性のある傍聴席の設置は、バリアフリー対応の傍聴席と併せて検討する必

要があると感じた。

⑶　議会を身近に感じる配慮について

府中市、越谷市ともに、傍聴席外の壁に傍聴用モニターが設置されていた。傍聴席に入ることに抵抗がある人でも、本会議の様子を外から気軽に見ることができるため、議会を身近に感じてもらう手段として有効であると感じた。市民課ロビーへの設置なども検討してよいのではないかと思う。

また、防音性のある傍聴席があれば、親子での利用だけでなく、さまざまな利用が考えられるため有用であると感じた。

越谷市では、委員会室を活用した展望ラウンジが設置されていた。松本市でも、市民が議会を身近に感じられる場として、松本城と北アルプスを望めるスペースの設置を検討できればよいと思う。

⑷　議会応接室の設置について

両市とも議員応接室が設置されていた。特に府中市には３室あり、市民相談等に利用されているとのことだった。本市には同様の部屋がないため、現在は議員控室や廊下の応接で対応している。議員応接室があれば会派控室との使い分けが可能となるため、設置の必要性を感じた。

令和８年７月２７日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　横内 裕治

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

１　府中市議会

(1)　市の概要と庁舎建設

府中市は、人口 26 万人、面積が 29.43㎢、予算規模が 1,328 億円、財政力指数 1.26 で地方交付税の不交付団体である。職員数は、1,362 人、議員定数は３０人

庁舎の建設は、「おもや」と「はなれ」の複合型庁舎で、庁舎機能となる「おもや」は、令和５年８月から業務を開始している。

(2)　庁舎建設の経過

庁舎は、昭和 34 年に西庁舎が建築されてから増築を重ねきたが、老朽化が進み、耐震性も不十分で、大規模災害や多様化する住民ニーズに応えられないため、新たな庁舎の建設となった

(3)　議会フロア機能の概要

・　議会フロアは、庁舎の最上階の５階で、ワンフロアの配置となっている。
ロビーや議場に地元の３種類の天然木材を利用し、木の温もりにあふれた内装となっている。

・　議会フロアには、東西に２か所のエレベーターを利用し、東側が市民が利用し議会フロアに来る場合と、西側が職員と議員が利用するものとに分かれての利用となっている。

・　セキュリティも、市民利用はエレベータホールに隣接し、議会事務局窓口があり、窓口で議場及び委員会の傍聴の受付を行い、議会フロアに入るようになっている。また、議員、職員は、セキュリティカードにより、専用のエレベーターからカードキーをかざして、扉を開場し議会フロアに入るようになっている。

・　バリアフリーや聴覚、身体障がい者には、充分な対応をしている。

・　委員会室は、４つの常任委員会が同時に開催できる４部屋としているが、第１から第３委員会室は、一つフロアに出来る移動式の間仕切りとなってる。

・　会派室は、１人 10 ㎡を基準、控室と執務室を兼ねている。議員応接室は３室、図書室は議会ロビーと兼ねて設置、登退庁表示システムは議会ロビー前のタッチパネル

(4)　所感

議会フロアが５Ｆのワンフロアであり、事務局、議員控室、議場他の会議室の動線が分かりやすく、利用しやすいと感じた。また、バリアフリーや身体障がい者へ

の対応も十分対応している議場の機能だと感じた。

特に議場は、東京都の木材を利用した、温もりのある内装で、市民からも親しみの持てる議場になっていると思う。本市の議場にも、地元産木材（カラマツ等）を多く利用すべきだと思う。

議場の傍聴席の高さも、ちょうど良い高さだと感じた。また、フロアの通路や議席間の前後も余裕があり、利用しやすいと感じた。

本市の庁舎の議会フロアでも参考になる部分が多くあると感じた。

2　越谷市議会

⑴　市の概要と庁舎建設

越谷市は、人口 34 万人、面積は 60.24㎢、財政規模は 1,323 億円、財政力指数 0.86、職員数 2,981 人、議員定数 32 人である。

庁舎は、議会フロアの入る第１庁舎は、令和３年５月から業務を開始している。

⑵　庁舎建設の経過

庁舎は、建設後 49 年が経過し、狭隘化、分散化、防災対策及びバリアフリーや情報化など、老朽化と市民ニーズへの対応が不十分であったため、市民の安全・安心な暮らしを支える親しみのある庁舎として、建設を進めてきた。

第１庁舎、第２庁舎、本庁舎となる第３庁舎と市民の協働ゾーンとなる施設と接続した、複合型の庁舎となっている。

⑶　議会フロアの機能の概要

・　議会フロアは、７階と８階の２フロアを利用している。７階は議会事務局、図書室、議員控室他、８Ｆには議場、委員会室が配置されている。

・　議場は、議員と理事者が相対する対面式の従来の配置、木目調の温かみのある内装となっている。また、床は、議員は階段式、理事者はフラットとなっている。バリアフリー、傍聴席の配置も配慮されている。特に傍聴席と議員席の間には、１ｍ位のガラス張りの仕切りがある。また、傍聴席の高さも議場の床から 55 ㎝の高さで、議場全体が見渡せる高さとなっている。

・　親子傍聴席は、一般の傍聴席と区切り、ガラス張りの一部屋になっている。

・　第１委員会室は可動式間仕切りにより一部分を仕切れるようになっており、議会開催以外の場合は、展望ラウンジとして開放をしている。８階であり見晴らしも良かった。

・　理事者控室は、議場に隣接する第１委員会室が控室と兼用となっている。

・　会派控室は、人数の移動に対応できるように、稼働できる防音性もある間仕切りとなっている。事務机と椅子が配置され、その他の事務機器は、政務活動費で会派ごとに必要なものを対応する方式となっている。

・　電子採決も採用し、押し間違のないように議長が確認の時間を取って対応して

いる。ほとんど問題はない。

⑷　所感

議会フロアが２階にまたがっており、利用面からするとワンフロアの方が良いと感じた。８階の議場のロビー及び市民に開放している展望ラウンジは、眺めも良く、市域が見渡せ良いフロアの配置であると感じた。

委員会室の配置は、それぞれの議会の歴史や方式があり、本市の利用方法に基づき、配置することが良いと思う。

越谷市の傍聴席の高さも、全体が見渡せ、高くもなく低くもない議会床から 55 ㎝の高さは、良い高さだと感じた。

越谷市の議場の広さも 32 名定員で、本市より若干広いスペースを確保しており、本市の議場もこの位のスペースは必要だと感じた。

親子室の利用は、ほとんどないとのことであり、親子に限らず誰でも利用できる部屋として、区切られた部屋は用意をすることが良いと思う。

会派の控室は、会派の人数の移動にどのように対応するかが課題であるが、防音性のある間仕切りで移動できることが良いと思う。

令和８年７月２７日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　牛丸仁志

―行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

１　府中市議会

議会フロアは、ワンフロアに集約され使いやすい配置になっている印象があった。

職員の皆さんからは働きやすくなったとの感想があるとのことだった。

セキュリティ対策として、市民が出入りする場合は議会事務局の前を通り確認ができるようになっていたり、出入口の扉にＩＣカードで管理できるようになっていたり、会派室の出入りもＩＣカードで管理するなどセキュリティが徹底されている。一方、市民が自由に出入りできるエリアは、議会図書室とロビーになっていた。市民が日常的に訪れやすい空間としては課題があると捉えていた。

議員控室の面積は１人当り１０㎡。洗面化粧台、テレビ端子、事務机といす、応接セット、ロッカー、コートハンガー、テレビ、簡易プリンター、電話機等とのことで備品が整備されている印象があった。ひとり会派の扱いもしている為に、会派室の仕切りが課題になっていた。

議場は対面式で、演台は自動昇降式になっており、車いすでも利用可能になっている。字幕表示システムは当初は計画は無かったが、聴覚障害者等の要望があり、導入していた。電子採決システムがあり、議長が押し忘れや間違いはないかを最終確認するなど工夫していた。

委員会のライブ中継をコロナ禍を契機に開始したが、コロナ５類後も継続しており、傍聴も受け入れている。

２　越谷市議会

議会フロアは、７階と８階のフロアに分かれている。８階は議場と委員会室。７階は会派室や議会事務局、市民相談室があるのも特徴的

新庁舎で導入した機能・設備については、バリアフリー化、電子採決システムの導入、議場に質問席を設置、議場モニターを設置、親子傍聴席を設置、磁気ループを設置、委員会に中継設備を整備、会派室の仕切りを変更できるような壁とするなどの工夫がされていた。

委員会もライブ・録画配信システムあり、配信業務は別途業者と契約している。

議場には親子傍聴席があり、音声がスピーカーから流れるシステム。車いすも入れるスペースや磁気ループも整備され、対応するイヤホンが１０台あった。

議会フロアのセキュリティ対策は、入口は施錠しており、来訪者はインターホンで

議会事務局が都度確認している。議員、職員はＩＣカード対応

市民相談室を新たに設置し、議員が市民の相談対応ができるようになっていることは参考にしたい。

更衣室もあり畳敷きのスペースでは、具合が悪い時の休憩室になっていたり、授乳室にもなっている。議員だけでなく職員も利用できるとのこと、参考にしたい。

展望ラウンジが南北２か所にあり、眺望を楽しんだり、モニターを通して議会傍聴も可能になっている。

３　所感

２か所の議会施設に共通していた点は、セキリュティ対策が整備されていたり、電子採決システム導入、バリアフリーの観点で整備されていること、本会議のライブ中継はもちろんだが、委員会の中継も実施されていたことは市民が議会に関心を寄せる機会にもなるために参考にしたい。

共通している設備は新庁舎の議会スペースにも活用できると良いと思った。

越谷市の会派室の仕切りの壁を会派人数により変えられる仕組みは参考になるし、気軽に傍聴できる親子室や、議場の外からモニターを通して傍聴できるスペースも市民の傍聴へのハードルを下げる効果があり参考になると思われる。

議会施設への意見集約は、意見がまとまる部分と意見が分かれる部分があるので、そのまま執行部に提出しているというやり方だったという事もお聞きしたので、松本市議会も折り合えない点はそのような対応でも良いのではないかと思った。

今回の視察内容を新庁舎の議会施設へ有効に反映していきたいと思います。

令和８年７月１６日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　塩原　孝子

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		⑴　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		⑴　議会施設について

１　東京都府中市議会

⑴　市の概要

府中市は人口２６万２千人、世帯数１３万３千人の市であり、中核市移行を検討している。議員定数は３０名

財政の特色として、昭和３０年から大田区平和島でモーターボートの競争事業をおこなっている。最近では毎年３０億円程度を一般会計等に繰出している。令和７年度末までの収益金の繰り出しは３０７０億円に上っている。令和８年度一般会計は１３３０億９千万円規模である。

⑵　議会施設

議場及び関連施設は５階に設置されており、内装に武蔵野の地に古くから根付く３種の天然木が使われており温かみのある空間となっている。

議場内のバリアフリー化については、議会独自というものではなく、視覚障がい者の方の意見を受け、庁舎全体に点字ブロックの敷設がされている。議会棟においてもエレベーター前から議会事務局前まで点字ブロックの敷設が行われている。

採決については、電子採決システムが導入されている。導入したことにより通信エラーが発生したケースは一度もなかったということだった。

議員控室については、議員一人あたり、１０㎡あり洗面台、事務机、応接セット、ロッカー等が備え付けられており、現在の松本市の議員控室と比べてはるかに充実している。

議会のセキュリティ確保については、議会や議員を訪れる市民の方などが議会施設に出入りする場合は、必ず議会事務局の前を通って議会エリアに入る動線になっており、常にチエックできる体制になっている。また議員、事務局関係者については、西側のエレベーター、階段からの出入口の扉をＩＣカードで管理しており、関係者以外は西側から入ることは出来ない設計になっていてセキュリティを確保している。

議場の配置は、オーソドックスな前後対面式を採用している。議会は今まで培った伝統があり、議会としても時代の変化に対応して行く必要性も感じた府中市議会施設の視察であった。

2　埼玉県越谷市議会

⑴　市の概要

越谷市は人口３４万１千人、現在でも人口が増え続けている。議員定数は３２人

江戸時代から日光街道の宿場町として商業が発達し、河川、用水が流れ「水郷こしがや」と呼ばれていた。現在も国内最大級のショッピングセンターがあり、その地域特性が受け継がれていると言える。

平成２７年４月に特例市から中核市に移行している。令和３年５月に越谷市庁舎完成

⑵　新庁舎で導入した機能・設備

バリアフリー化、電子採決システム、議場に質問席設置、議場にモニター設置、親子傍聴席設置、磁気ループ設置対応イヤホン１０台。委員会室に中継設備を整備。会派室は仕切りを用い大きさを変更できるようにした。市民相談室を設置。

会派控室については、全体の面積は約３０８㎡、一人当たり約９．６㎡で稼働式のスチールパーテーションの仕切りを設置、最大１０室対応

議会事務局には監視カメラを設置。議会図書室については、４８㎡から６０㎡の拡張し、書庫と一体化して面積を増やしている。

議会空間の多目的利用については、南側展望ラウンジは、定例会中は第一委員会室として利用しているが、閉会中は展望ラウンジとして開放しており８階最上階からの眺望を楽しむことができる。

北側市民ラウンジについては、議会傍聴席入口にあり、傍聴時の休憩席としても利用でき、モニターを設置しており、傍聴席に入らなくても議場の様子がわかる。また、傍聴席が満席となった場合、ラウンジで見ていただくことも想定している。

課題としては、執行部席には車いすで入れないこと。議長席は車いすの対応がないこと。「親子傍聴席」はあまり利用がなく、「誰でも傍聴席」という使い方、名称の方が良いかも知れないこと。磁気ループ設置については、イヤホン利用実績は特定の１人だけで、他の人の利用実績はないこと。

3　所感

松本市役所新庁舎議会関連施設においては、スペース的な制約が大きく、視察した両市役所のような議会関連施設の充実は不可能と考えられる。今後必要最小限度の設備をどう入れて行くかが課題となる。

令和８年７月２８日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　土屋　眞一

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		⑴　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		⑴　議会施設について

１　府中市議会視察報告

⑴　議場

・　議員側と理事者側が向き合うレイアウトは基本形と言え、なじむ形態である。

・　傍聴席の高さも程よい感覚であった。

・　車いすユーザーに利便な設備はＵＤの観点から重要

・　傍聴ロビーではモニターによって議場内を傍聴することができ、いわゆるガラス越しの傍聴に比べ傍聴者にとっては、安心感がある。

・　演壇の上下動は導入したい。

・　聴覚障がい者のための磁気ループは、使用実績はないとのことであったが、有効な設備であり導入したい。

・　モニターに映し出される音声の文字変換はかなり正確で、導入したい。

・　電子採決、会議マイクユニットなどは標準装備として導入したい。

・　議場の多目的利用については想定していないとのこと。本市としては柔軟に対応していくことが必要ではないか。

⑵　委員会室

・　第１委員会室は委員長が理事者を背にしているレイアウトであり、従来からの方式ということではあったが、こうしたレイアウトにはすべきではない。

・　第２・３・４委員会室を個別、２分割、全体使用と仕切りで部屋を分けられるつくりは効率的

・　しかしながら、それぞれの委員会室において、第１委員会室のようなレイアウトとなるならば、理想のレイアウトを踏まえ、それぞれの委員会室の面積を考慮すべきである。

・　委員会室は議会専用としてつくられており、本市でも議会専用としたい。

⑶　議会フロア

・　議員・議会事務局と一般市民の導線は別としている点、セキュリティとしての防犯カメラ設置、エレベータを含めたカードリーダーの導入等は、検討すべきである。

・　会派室について議員一人当たり 10 ㎡の面積は適切である。また、会派室では基本的には議員控室であるが、執務もできる。本市も同様としたい。

・　会派室毎の面積を決めることは容易ではない。入派人数に応じた仕切りの変更

が可能な方策を検討すべきである。

・　議員応接室は必要。市民や市長部局の担当者は会派室に入らないという運営は参考とすべき。

・　説明員控室は必要なものとの考え方の一方で，現在は「チームス」で対応していることが多いとのこと。本市における必要性を改めて検討すべきである。

・　子供への対応について、キッズルームはあるが託児設備は無いとのこと。インターネット中継の有無や、モニターでの傍聴という方策も考慮し、必要性について検討すべきである。

2　越谷市議会視察報告

⑴　議場・委員会室

・　議場内はバリアフリー化したということであったが、理事者席において車いすが入れるスペースが確保できていないという。本市ではそのようなことが無いように検討が必要である。

・　電子採決システムは導入したい。

・　演壇の上下動は導入したい。

・　親子傍聴席を設置したが、活用はあまりないようである。「親子」という名称が親子以外の活用を妨げている可能性もあり、設置の有無、名称もたとえば「誰でも傍聴席」といった案が出されていた。検討すべきである。

・　磁気ループが設置されている。対応するイヤフォンは 10 台。本市でも装備していきたい。

・　委員会室には中継設備が整備され、２委員会同時の配信が可能となっている。一方で委員会中継ができない会議室の利用が低迷しているようだ。本市も基本的には２委員会同時開催ではあるが、４委員会同時開催時の中継の在り方について検討が必要である。

・　議場において質問時にモニターが使用できる点は良いが、ＯＨＰのような操作で、直接カメラにより資料を映す方式のため、質問者に負担がかかる感じであった。また映像は記録に残らないため、内容を口頭で説明しなければならないこと等々、課題と感じた設備であった。本市としては、デジタル映像として記録に残せる方法の検討が必要である。

・　議場での事務局職員による音響や映像等の対応がワンオペとのこと。本市でも同様に検討が必要である。

⑵　議会フロア

・　会派控室について議員一人当たり 9.6 ㎡。約 10 ㎡を本市の基本としたい。

・　会派控室は最大 10 室設置が可能であり、現在は８室とのこと。一つの部屋を二つに分けるために間仕切り壁を設置するが、約２か月の期間と，約 96 万円の費用

が発生。本市でもこうした間仕切壁設置を参考とされたい。

・　議会フロアのセキュリティ対策については、南側においてインターフォン対応となっているが、議員・議会事務局と市民の動線を考慮した検討が必要である。

・　市民相談室は少々狭く圧迫感があった。応接室を含め、適切な部屋数と収容人数の検討が必要

・　別途購入した機器・什器類、スピーカー等については参考となるものであり、意識しておく必要がある。

・　展望ラウンジは景色が素晴らしかった。しかし、議会のスペースにつくるべきものなのか検討が必要である。

令和８年７月１４日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　芝山　稔

行　政　視　察　報　告　書

視察先及び視察事項	令和８年７月９日	１　東京都府中市議会
		(1)　議会施設について
	令和８年７月１０日	２　埼玉県越谷市議会
		(1)　議会施設について

今回の視察では、①議場の形式、②議会フロアのセキュリティ、③会派控室の面積と機能、④市民相談室の設置状況、⑤委員会室の中継設備の状況について確認することに重点を置いたところです。府中市議会、越谷市議会それぞれに報告します。

【府中市議会】

①　前後対面式（段床式）

②　議場ロビーだけをフリースペースとし、議員・職員はＩＣカードにより入退管理、各会派控室も専用ＩＣカードで入退室管理

③　議員一人当たり平均 10 ㎡ということで、執務室としての位置付け

④　議員相談室として３室整備

⑤　委員会のライブ配信を実施中

全体として目標とできる設備内容であったと思います。エレベーター出口から議会事務局前まで点字ブロックが整備されていることには感心したところです。発言台の昇降装置は本議会でも採用したいと思います。

【越谷市議会】

①　前後対面式（段床式）

②　議場ロビーだけをフリースペースとし、議員、職員はＩＣカードにより入退管理、控室への入退室管理はない

③　議員一人当たりは 9.6 ㎡であるが、間仕切りの関係で多人数会派ほど狭くなる

④　市民相談室は１室（18 人）整備されていたが、6 人程度で 3 室欲しい。

⑤　委員会のライブ配信実施中、対応職員１名

府中市と同様に、控室は執務室との文化があり面積は広くなっています。展望ラウンジで眺望を楽しむことができるようになっています。議場の積極活用は行っていません。

令和８年７月２１日

松本市議会議長　阿部　功祐　様

議会運営委員　近藤　晴彦